

在宅医療支援システム研究会次第

日時 平成27年10月27（火）
18時30分～

場所 介護老人保健施設くろかみ 研修室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告・紹介事項

(1) 会長から

(2) 第3回多職種連携会議（10月7日）について

(3) その他

4 協議（意見交換）事項

(1) テレビ会議室システムの試用について

(2) 認知症ケアパスの普及方法について

(3) その他

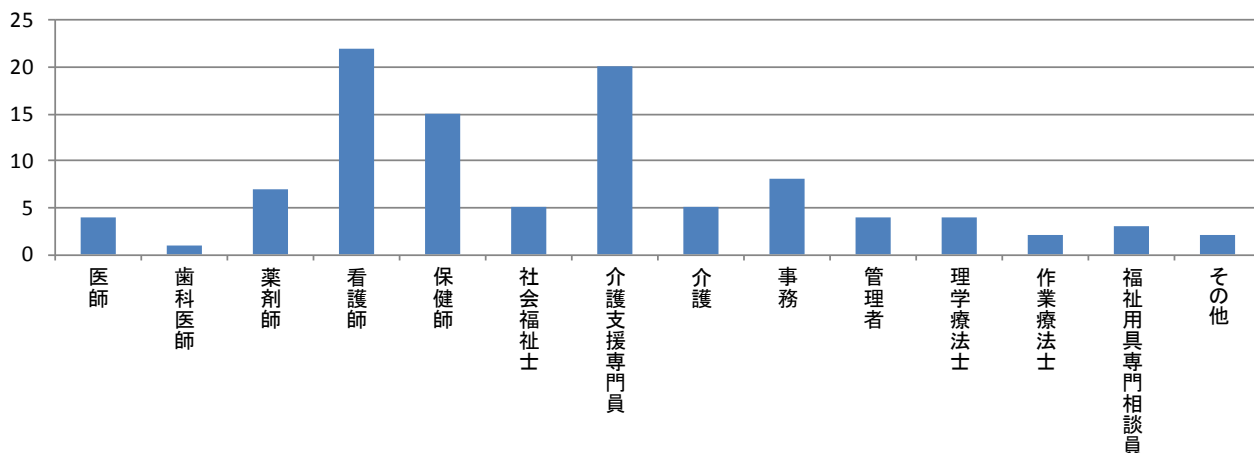
5 その他

次回開催日

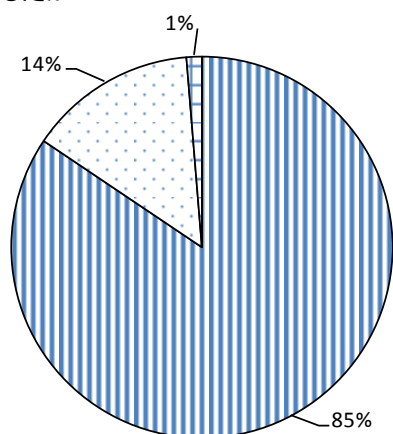
平成27年11月 日（ ）

平成27年度第3回医療・介護多職種連携会議 アンケート結果

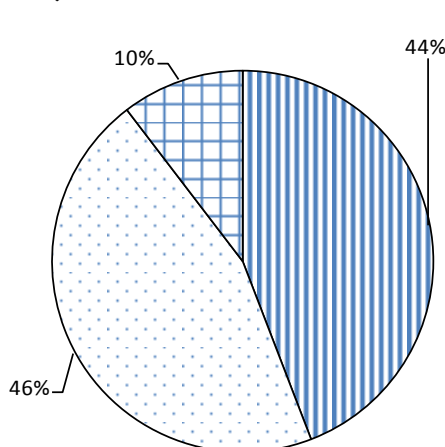
参加者内訳



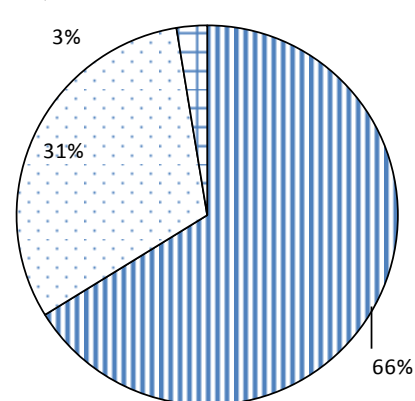
自分の考えを発表することが出来ましたか？



KJ法によるグループワークはどうですか？



「糖尿病連携」について今日の研修で気付いたり、考えが変わった事がありますか？



■はい □どちらともいえない □いいえ

研修会参加者数 102名 アンケート回答者 77名 回収率 75%

Q5. 「糖尿病連携」について今日の研修で気付いたり、考えが変わったことはありますか？それほどのようなことですか？

- ・連携ノートや用紙の活用を行っていく。
- ・連携手帳。
- ・多職種で見方や考え方も違うため、あらゆる視点から考えることが出来ました。
- ・多職種の方の意見を伺い、予防、対処を学んだ。今までは、対処の方ばかり考えていた。
- ・多職種連携の重要性。
- ・施設以外の病院、居宅の分野の情報や知識を得ることが出来た。
- ・住民、患者の知識不足（合併症、生活習慣）に対して、各地域で住民を集めた会などで一緒に考えていくことが大切。（一方的な押し付けは良くない、続かない。）
- ・職種による考え方の違い
- ・日々の生活習慣に気を付けたい。
- ・新薬の提案、専門医、病院、どんどん新しい薬が増えていることが分かりました。
- ・糖尿病の医療、介護連携が必要だと感じた。（指導内容、数値の共有）
- ・治療状況の情報が得られないという意見があった。情報共有が必要。その方法を具体的にしていく必要がある。
- ・様々な立場からの意見がきけた。地域、本人、家族、専門職など連携していかないといけないと思った。
- ・子供のころからの教育と、働き盛りの人を対象に、指導をしていく必要がある。
- ・やはり意識の低さがあるので、意識、関心をたかめるアプローチが大切だと再認識しました。

- ・なぜ薬の飲み忘れがあるのか？患者様に尋ねたことがあるのか？その理由こそ対策があるのでは。ただの飲み忘れと職員は思っているのでは？
- ・在宅の人にもっと指導してほしい。本人、家族、健診でひっきり病院いくも治療の必要がないと言われると、安心し、その後病院には行かなくなるので、定期的に健診が必要なことをしてもらい必要がある。
- ・糖尿病サポーターの役割がはっきりしない。
- ・糖尿病サポーターについて、もっと理解していきたい。
- ・若年者に対して、糖尿病サポーターを通して職場への啓蒙。
- ・低血糖について在宅でわかりやすくする工夫をしようと思う。
- ・糖尿病患者の問題になることがまとめられて、何が問題になるのかが分かった。
- ・健診後の6か月、1年後などの受診の継続の難しさ。
- ・糖尿病という病気について若いころからの意識づけが必要。
- ・糖尿病にならないために健康教室に参加したり、地域、市で支えることが大切。
- ・低血糖の告知をしっかりとる。
- ・みんなで知恵を合わせると大きなものになる。
- ・多職種連携の大切さに改めて気づくことが出来ました。
- ・高齢者の対応をどこまでするか、本人の能力はどこまでか、なるべく簡単でやりやすい方法があれば良いのですが。
- ・予防が大事という考えの方が多い事がうれしかった。
- ・新見中央病院に糖尿病の専門医がおられることを知りました。色々な会議や広報誌の重要性を再認識しました。
- ・職場それぞれの立場で問題を抱えていて、その問題をすることで、自分の職場でのあり方を考えることが出来たと思います。
- ・在宅で薬等の管理が出来ない人が多い事がわかった。病院で出来る対応を考えていきたい。
- ・本人、家族、ヘルパー、訪看、ケアマネ、医療機関がその方にあった連携が取れるように、情報共有書を効率よく活用する。
- ・糖尿病についてもピア to ピア、当事者の目線を活かして地域理解を進めるやり方。愛育委員という言葉。
- ・地域のケーブルテレビの活用。
- ・ケーブルテレビや備北民報に啓発記事を掲載したらどうかというアイデアが出た事。

Q6. 当地域で「糖尿病連携」を実現するためには、何が大切だと思いますか？

- ・多職種での連携が必要。患者状況の把握。糖尿病についての知識や、情報を広め、多くの人に参加出来るシステム。
- ・医療機関、行政、福祉関係者の連携をもっと満たしていく必要がある。在宅での高齢者へのサポートは、訪問看護、ヘルパーとの関わりを増やしていけるよう介護保険の内容を充実していく必要があると思います。
- ・地域、医療、福祉との連携が大切だと思います。
- ・教育入院。
- ・市、民、官の連携
- ・連携、各分野の個人の意識の高さ。
- ・職場での困りごとの共有、相談。
- ・訪問診療、糖尿病教室への参加、知識不足の改善。
- ・主治医⇔薬局⇔ケアマネ⇔訪問看護と連携が大切。
- ・まずお互いの糖尿病に関する仕事内容などを知ることから始めることが大切と思う。
- ・専門医との連携、企業、地域の各団体との連携、住民への啓発活動。
- ・かかる前に食い止める⇔小さい時からの啓発。
- ・本人、家族の知識理解を深める。
- ・地域の方を含め、成人病予防の話をして、理解してもらうことが大事だと思う。
- ・地域全体で糖尿病の普及啓発をしていく。
- ・病院での個別指導（診療）内容を施設やケアマネにも伝達する。（Z 連携の活用）
- ・常駐専門医の確保。
- ・早期発見、早期治療。
- ・意識改革（病気に対する認識が深められるよう広報、研修会の開催）。
- ・認知症支援のような取り組み（医、福、市、地域連携）は出来ないものか？
- ・糖尿病は痛くも痒くもなく自覚症のない恐ろしい病気です。市の活動の中、愛育委員という組織があります。愛育委員は市の指導のもと、毎年糖尿病について活動していることを知っていますか？この会議に支部長だけでも参加させてほしかった。

平成 27 年度岡山県在宅医療連携拠点事業

- ・糖尿病サポーターの確立。
- ・糖尿病ガイドブックの作成。
- ・子供から、高齢者まで意識づけ。
- ・今日のような会議を度々行う。
- ・家族、本人の意識が大切だと思います。
- ・健康であることの大切さをしてもらい、正しい糖尿病の情報を発信して欲しい。
- ・各々が知ろうとすること。
- ・多職種で運動、栄養、地域の関わりなど小規模で指導していく。
- ・個別に見える「指示書」が必要ではないでしょうか？本人、関わる側が共有できるものなど。
- ・意識づけや糖尿病の個別指導の大切さ。
- ・糖尿病サポーターの活動を利用。生活習慣病予防を早めに始める。
- ・医療ではあるが、介護保険サービスの関わりでの管理も重要。
- ・メディカルおよび介護のスタッフのお互いの顔が分かることが大事。
- ・患者さんへの意識づけをどのように働きかけ、行っていかかという事。
- ・チームで一人の方をしっかりとみていく連携。
- ・個別指導の方法が最重要課題である。
- ・多職種に相談したり、知識を深める勉強会を定期的に関く。
- ・患者さんに分かり易く伝えられる指導を行う。
- ・個々のスキルアップ、スキルアップできる場。
- ・地域、行政、医療の連携。医療に関しては糖尿病の専門医や認定看護師や栄養士などを置き、もっとアピールしていく。
- ・糖尿病、生活習慣病の予防に力をいれることが大切だと思います。医師の一言は大切です。大丈夫と言われたら安心してしまいます。次につながる言葉を伝えて頂けたらいいと思います。
- ・独居老人と高齢者の足の確保（医療機関への通院）のための交通手段。
- ・それぞれの職種が集まり、問題点を出し合って目標を立てる。そのことを多くの方に広めることが大切かと思えます。
- ・近隣地域の医療機関で統一性があれば、いつでもどこでも安心して医療にかかれるので、同じ仕組みで同じ治療方針になって頂ければうれしいです。
- ・健康づくりの分野から連携する。
- ・インスリン治療があっても利用できるショートステイサービス

Q7. 講義の内容や、会議の企画・運営に対するご意見（グループワークの方法など）があればお書き下さい。

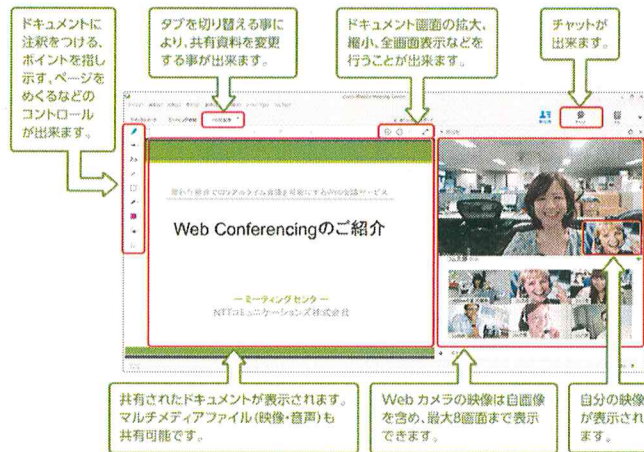
- ・介護と医療の連携について、お互いどんな情報が欲しいのかを知りたい。
- ・色々な意見を聞くことが出来ました。
- ・終わるとなぜか達成感が味わえてうれしいです。
- ・日常の業務と違って、地域の日頃お世話になっている方々と親しく話が出来る機会をありがたく思っています。お世話になりました。
- ・KJ法について感じた事。途中チームへの移動と紹介がありましたが、ロスタイムだと思った。一つの議題だったら、ローテーションなしの方が、話がはずむと思う。
- ・グループワークの時間がとにかく短かったです。
- ・初めて参加しましたが、グループが途中変更になり戸惑いました。
- ・本日の移動するグループワークは？移動のない方が話が進むと思います。
- ・保健師さんの話はわかりにくい。
- ・グループを途中で入れ替えるならば、その分講義の時間を調整して欲しい。せわしかった。
- ・時間のわりに、テーマが大きすぎるのでは？
- ・途中でグループが変わるのはいいと思う。
- ・今日は途中でグループ移動がありましたが、同じメンバーが良かったと思います。伊豆の方の参加があり、新鮮でした。
- ・他地域（伊豆今井浜病院様）の方に入ってもらったことで、いつも以上に議論が深まりました。
- ・どうやって解決したらよいか、様々な意見がきけて良かった。

※同じ内容のご意見はまとめて掲載させて頂きました。



Arcstar Web Conferencing ミーティングセンター 機能

Web Conferencing の豊富な機能をご紹介します。



全ての機能もご登録無料でご体験いただけます！
無料トライアルお申し込みはこちら

ドキュメント共有

ドキュメント共有機能 [画面を見る](#)

PowerPointや印刷可能なファイルであれば、プレゼンターのPCに存在するあらゆるファイルを、事前のアップロードなしに共有することができます。

動画メディアファイル共有機能

動画ファイルなどのマルチメディアコンテンツの共有ができます。

[このページのトップへ](#)

アプリケーション共有

アプリケーション共有機能 [画面を見る](#)

プレゼンターのPCにインストールされているアプリケーションであれば、参加者にPCインストールされていないアプリケーションでも共有することができます。

アプリケーション共有のコントロール権委譲

共有されたアプリケーションを任意の参加者にコントロールさせることができます。

Webブラウザ共有機能

プレゼンターのブラウザを共有し、Webサイトをナビゲートできます。プレゼンターが指定したURLを各参加者に送信することができます。

[このページのトップへ](#)

デスクトップ共有

デスクトップ共有機能 [画面を見る](#)

アプリケーションを含む、PC上にあるすべての機能(デスクトップ)を共有することができます。

デスクトップ共有のコントロール権委譲

共有されたデスクトップを任意の参加者にコントロールさせることができます。

[このページのトップへ](#)

音声、映像、チャット、コミュニケーション機能

Webブラウザ共有のコントロール権委譲

プレゼンターが共有したWebブラウザを任意の会議参加者にコントロールさせることができます。

ファイル転送機能

会議参加者で、ファイルを暗号化して転送することができます。

お問い合わせ お申し込み
資料請求

サービスのお問い合わせ お見積もり
法人コンタクトセンター
☎0120-106107
受付時間 9:30~17:00 (土日祭日を除く)

Arcstar Web Conferencing
ミーティングセンタートップ
サービス詳細
利用シーン
お客さまの声
機能
ご利用条件
サービスプラン
料金
Web会議・テレビ会議サービスとは
よくあるご質問
無料トライアル

関連サービス

[Arcstar Conferencing トップ](#)

[Arcstar Audio Conferencing \(電話会議\)](#)

[Arcstar Web Conferencing \(Web会議\)](#)

[Arcstar Video Conferencing \(ビデオ会議\)](#)

[Arcstar TV Conferencing \(テレビ会議\)](#)

[Arcstar Conferencing Event\(オンラインイベント\)](#)

サービスのお問い合わせ お見積もり
法人コンタクトセンター
☎0120-106107
受付時間 9:30~17:00 (土日祭日を除く)

海外進出を
お考えの
お客さまへ

ビデオ映像機能 [画面を見る](#)

市販のWebカメラなどを利用して映像共有ができます。
※画像像含め、最大8画面となります。

ホワイトボード機能

ウィンドウ上の任意の場所に、図形や文字を描写したものを共有することができます。

チャット機能

会議参加者間で文字による会話ができます。

音声機能

経済的なインターネット電話 (VoIP) に加え、**電話からも音声通信が可能**なので、環境に左右されず会議に参加できます。

※電話会議機能を利用する場合は、全ての参加者が電話会議で音声参加する必要があります。
※電話会議機能 (Audio Conferencing) の別途契約が必要です。

注釈機能 [画面を見る](#)

共有されたドキュメント、アプリケーション、デスクトップにペンツールで注釈をつけることができます。

投票機能

投票やアンケートなどを選択式で実施。自動集計ができます。

主催者権委譲

そのミーティングセッションにおける主催者 (ホスト) 権限を参加者へ委譲することが可能です。

プレゼンター権委譲

その会議におけるプレゼンター権限を参加者へ委譲することができます。

[このページのトップへ](#)

作業/記録**会議記録/再生機能**

オンラインミーティングの録画やあらゆるアプリケーションのオフラインでの録画が可能。録画ファイルはプレーヤーの自動ダウンロードと同時に再生することができます。

会議記録編集機能

録画ファイルをwmv形式に変更することができます。

[このページのトップへ](#)

その他付随機能**Outlookとの統合**

主催者 (ホスト) はミーティングを作成し、Microsoft Outlookから出席者を招待することができます。

セキュリティ強化対応 (128bit暗号化)

Web会議セッションをSSLにより暗号化します。

多言語対応

日本語の他、英語、簡体中国語、繁体中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スウェーデン語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語の複数言語に対応できます。


[このページのトップへ](#)

全ての機能も2週間無料で体験いただけます!
無料トライアルお申し込みはこちら

お問い合わせ お申し込み 資料請求

Arcstar Web Conferencing ミーティングセンタートップ | サービス詳細 | 利用シーン | お客さまの声
機能 | ご利用条件 | サービスプラン | 料金
Web会議・テレビ会議サービスとは | よくあるご質問 | 無料トライアル
他の仮想PBX・ユニファイドコミュニケーション・会議へ

[このページのトップへ](#)

 ICTトレンドやビジネスに役立つ情報、NTT Comのトピックスをいち早くお届け!!
[メールマガジン無料登録はこちら](#)

Copyright © 2015 NTT Communications

新見地域医療連携推進研修会



日時 平成27年11月19日(木) 18時30分～20時30分
(18時00分受付開始)

場所 阿新農業協同組合 3階会議室

住所 新見市高尾2423 電話 0867-72-3131

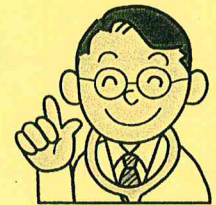
新見地域医療ネットワークでは、医療や介護の必要な住民がよりよい生活が送れるように保健・医療・福祉の関係者の連携を推進するため、多職種による研修会や取組の企画を行っています。

今回は、新見地域の僻地医療等に携わっている渡辺病院 遠藤院長先生をお迎えし、御講演をいただきます。また、病院と在宅支援機関との連携体制について話し合いの場を持ちながら、地元の先生方や医療機関と在宅支援機関のより身近な関係づくりをめざしています。

◇内容

●講演「仮 新見地域の在宅医療推進のために」

講師 医療法人思誠会 渡辺病院 院長 遠藤 彰 先生



●情報提供 「新見地域の入退院支援ルール」

新見市在宅医療連携拠点まんさく 松本信一氏

●グループワーク「安心した在宅生活のための入退院連携支援」

●グループ発表

●助言・まとめ 新見医師会長 太田隆正 先生
渡辺病院 院長 遠藤 彰 先生

日頃の業務を通じた課題・取組・質問・感想等気軽に

◇対象 保健医療福祉施設の医療・介護・福祉関係者・介護支援専門員
新見地域医療ネットワーク委員

◇申込方法 裏面申込書によりFAXで下記申込先へお申し込みください
締 切 平成27年11月12日(木)必着

◇申込先及び問合せ先

新見地域医療ネットワーク事務局 (岡山県備北保健所新見支所)

住所 新見市高尾2400

電話 0867-72-5691

FAX 0867-72-8537

送付先 Fax. 0867-72-8537 (送付状不要)

新見地域医療ネットワーク事務局 あて

(岡山県備北保健所新見支所 新見地域保健課)

★参加申込締切 平成27年11月12日(木) 必着

新見地域医療連携推進研修会 参加申込書

(平成27年11月19日(木)18:30開催)

施設名

所属	職種	氏名	備考

研修会参加にあたり、講師への御質問があればお書き下さい。

患者さんが急変！

あなたならどう対応しますか？



シミュレーション トレーニング

in新見

日時 平成27年11月7日(土)

1回目 13:00~14:30

2回目 14:30~16:00

場所 新見公立大学 3号館 看護実習室

対象 新見地域医療従事者

講師 万代康弘 先生 岡山大学 助教

溝尾妙子 先生 岡山大学

新見公立大学看護学部教員

主催：新見市地域医療ミーティング推進協議会
新見医師会、新見公立大学
岡山県看護協会新見支部

共催：岡山大学医療教育統合開発センター GIMセンター
キャリアセンターMUSCAT
岡山県地域医療支援センター岡山大学支部